

日本語の言語の副詞の
「とても」、「大変」、「随分」の類義語の研究
(意味論から見て)

インドラ アリゾナ

0342067

マラナタキリスト大学

日本語日本文学部

2010

序論

日本語では似てる意味言葉がたくさんある。日本語の言語学ではそんな問題が類義語と同義語という二つ名前がある。同義語というのはまったく同じ意味があって、もし一つ言葉が他の言葉が変わると意味が変更しないである。類義語というのは同じ意味あって、違う意味もことである。

日本語では言葉がたくさんあるですが、今回の研究は程度副詞を選ぶのである。程度副詞もいろいろな副詞があって、私は極端場合の程度副詞を研究するのである。極端場合の程度副詞も7つがあるのですが、私は三つだけ研究するのである、それは「とても」、「大変」、「随分」である。そんな言葉が文に良く使うので難しく使うのである。

「類義語」というのは、意味が同じか、または良く似ている単語のことである。（徳川、1972：3）

用言（動詞、形容詞、形容動詞）について、その用言の様子や状況、程度副詞などを表す単語を[副詞]と言います。（隆幸、1991：23）

程度副詞は「状態の意味を持つ語にかかって、その程度を限定する「副詞」と理解されている。（香、1993：20）

今回の目的は「とても」、「たいへん」、「ずいぶん」がどんなことをちがうか、しらべたいである。

「とても」、「たいへん」、「ずいぶん」がどんな違うところある。

「とても」、「たいへん」、「ずいぶん」がどの部分似ているか、調べたいである。もし一つ言葉が他の言葉で変わったら意味が違いになるでしょうか。

本論

1. 長門：うまい？ねえうまい？父ちゃん？

長門父さん：「こんな多くの魚をとれる程大きくなったとは. . .」

ああ、とってもうまいよ。

ア. 長門：うまい？ねえうまい？父ちゃん？

長門父さん：「こんな多くの魚をとれる程大きくなったと

は. . .」

ああ、大変うまいよ。

イ. 長門：うまい？ねえうまい？父ちゃん？

長門父さん：「こんな多くの魚をとれる程大きくなったと

は. . .」

ああ、随分うまいよ。

副詞を使う文の上はみんながかわることができるのである。そんな副詞の文が「うまい」の形容詞を修飾することである。それとも魚の味がすごくうまいといって感じがある。その三つ文はみんなが変わることができる、意味も違いにしないである。

2. 本当ですよ。私の日本語はとてもだめです。手伝いがありません。

ア．*本当ですよ。私の日本語は大変だめです。手伝いがありません。

イ．*本当ですよ。私の日本語はずいぶんだめです。手伝いがありません。

2 番目文は「とても」によって特別な問題です。こんな文が「とても」の副詞は「大変」と「随分」が変わることできないのである。「とても」の副詞は無理や〜ない形の言葉を説明するである。

3．そのお祈りには私も幼少だったとはいえ大変失礼いたしました。

ア．*そのお祈りには私も幼少だったとはいえとても失礼いたしました。

イ．*そのお祈りには私も幼少だったとはいえ随分失礼いたしました。

上にある文が、副詞が他の副詞と変わることができないである。「大変」が特別な性格があつて、それは感謝表現を表す言葉を修飾を表すことである、副詞が「大変」を使うことである。

4．あの薬を飲んで一日寝たら随分良くなりました。ありがとう

ア．*あの薬を飲んで一日寝たらとても良くなりました。ありがとう

イ．*あの薬を飲んで一日寝たら大変良くなりました。ありがとう

4 番の文に、随分の副詞がだいたい課題の文を変格することを説明することであるですが。いっぽいっぽ変格を説明する。もし随分が「大変」とか「とても」とかを変わりに変便がはなはだしくするであらう。

DAFTAR ISI

Kata Pengantar.....	i
Daftar Isi	ii
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah	7
1.3 Tujuan Penelitian	7
1.4 Metode Dan Teknik Penelitian.....	8
1.5 Organisasi Penulisan	9
BAB II KAJIAN TEORI.....	10
2.1 Semantik.....	10
2.1.1 Sinonim	12
2.2 <i>Fukushi</i>	17
2.2.1 Pengklasifikasian <i>Fukushi</i>	18
2.2.2 <i>Teido Fukushi</i>	20
2.2.2.1 <i>Taihen</i>	23
2.2.2.2 <i>Totemo</i>	24
2.2.2.3 <i>Taihen</i>	25
BAB III ANALISIS KESINONIMAN KATA DALAM BAHASA JEPANG PADA <i>FUKUSHI TOTEMO, TAIHEN, DAN ZUIBUN</i>	27
3.1 <i>Totemo</i>	28

3.2 <i>Taihen</i>	41
3.3 <i>Zuibun</i>	50
BAB IV KESIMPULAN.....	64
SINOPSIS.....	X
DAFTAR PUSTAKA	XV
LAMPIRAN I : DATA.....	XVII
LAMPIRAN II : KLASIFIKASI DATA.....	XXXVI
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....	LVI